

寒氣

流より流れ来る氷塊を受け止め、斯くして厚さ約三尺に至らしめ、車輛は其の上をのみ往來するを例とせり。

寒氣甚しきは、齋桑湖、塔爾巴哈台一帶の地にして、極寒の際は、殆んど氷雪中に在る如く、而も氣溫著しく順を缺き、爲めに途中凍死するもの少からず。予の烏魯木齊に達したるは、二月末なりしに、當時の溫度は、午前華氏十度、午後二十六度を示せり。以て嚴冬の互寒なる略、推知するに難からず。故に交通危險にして、間々人跡を絶つに至ると。又伊犁には冬季往々猛烈なる北風起りて、一たび其の襲來する所となるや、寒氣頓に加はるを常とす。南路は北路の甚しきに似ざるも、予が一月の末より二月の初め、哈密附近を通行せしとき、午前は七度、午後は三十二度を示しぬ。但し吐魯番のみは甚だ溫暖なりき。

暑氣

寒氣は北路の、南路よりも甚しきに代へ、暑氣は北路は、南路よりも緩なり。予の伊犁に達したるは、五月下旬にして、當時の溫度午前は四十五度、午後は六十度とす。盖し南路の炎暑酷烈なるは、一に降雨少なきと、空氣の乾燥甚しきと土地概ね高原の沙漠帶なる爲め、光線の反射激甚なるに因るならん。故に夏は滿地燒が如く、白